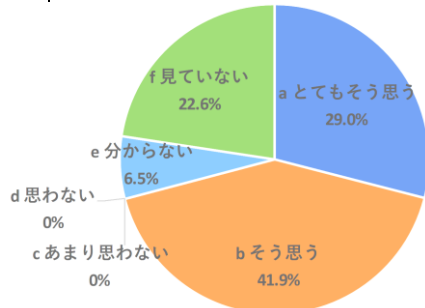
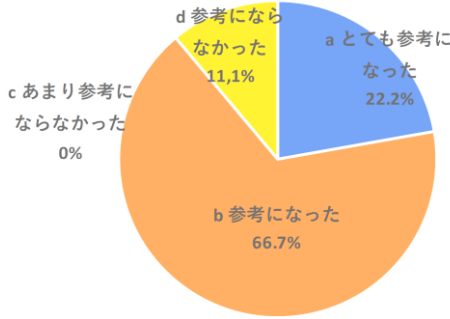


令和6年度 学校評価 中間評価

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	質問項目	中間集計結果	分析 (成果と課題)																																																							
(1) 授業改善と 専門性の向上	① <授業改善> 「新たな教師の学びの姿」を踏まえ、各自が学校研究を推進し、深い学びへの授業改善を行う。	研究推進課 全学部	アイデアシートや自己の研究等を活かし、教科及び自立活動の研究グループや担当する授業等において、授業の工夫改善に取り組んだ職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <div>達成度判断基準</div> 5項目のアンケート内容に対し、4項目以上に「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】5項目 ア. 研究会等において、授業改善について意見を伝えた。 イ. 研究授業及び普段の授業において、児童生徒に本時のねらいが伝わるように工夫した。 ウ. 研究授業及び普段の授業において、「深い学び」の姿を具体的にイメージし、授業を行った。 エ. 研究授業及び普段の授業において、発問による児童生徒の思考の流れをイメージして授業を行うようにした。 オ. 研究授業及び普段の授業において、発問によって児童生徒の応答反応を予想し、それに対する教師の問いかけを準備して授業を行うようにした。	各教員の「できた・ややできた」項目数の割合 ①5項目②4項目③3項目④2項目以下 達成度の割合（単位%） <table><tr><th></th><th>国語</th><th>算数</th><th>英語</th><th>全体</th></tr><tr><td>①</td><td>56.3</td><td>44.4</td><td>33.3</td><td>48.5</td></tr><tr><td>②</td><td>18.8</td><td>33.3</td><td>22.2</td><td>24.2</td></tr><tr><td>③</td><td>12.5</td><td>22.2</td><td>22.2</td><td>18.2</td></tr><tr><td>④</td><td>12.5</td><td>0.0</td><td>22.2</td><td>9.1</td></tr></table> 各項目の①+②の割合（単位%） <table><tr><th></th><th>国語</th><th>算数</th><th>英語</th><th>全体</th></tr><tr><td>ア</td><td>91.7</td><td>88.9</td><td>77.8</td><td>87.9</td></tr><tr><td>イ</td><td>91.7</td><td>100</td><td>88.9</td><td>90.9</td></tr><tr><td>ウ</td><td>75.0</td><td>88.9</td><td>66.7</td><td>78.8</td></tr><tr><td>エ</td><td>75.0</td><td>77.8</td><td>66.7</td><td>75.8</td></tr><tr><td>オ</td><td>58.3</td><td>66.7</td><td>33.3</td><td>54.5</td></tr></table> 【結果】 B「①+②」=72.7%		国語	算数	英語	全体	①	56.3	44.4	33.3	48.5	②	18.8	33.3	22.2	24.2	③	12.5	22.2	22.2	18.2	④	12.5	0.0	22.2	9.1		国語	算数	英語	全体	ア	91.7	88.9	77.8	87.9	イ	91.7	100	88.9	90.9	ウ	75.0	88.9	66.7	78.8	エ	75.0	77.8	66.7	75.8	オ	58.3	66.7	33.3	54.5	アンケートの結果、4項目以上実施した教員（①+②）の割合は全体では72.7%となり、B評価となった。達成度の割合はグループ間に差が見られ、自立活動グループでは55.5%となった。当グループでは児童生徒の実態から発問に対する思考の流れや応答反応を予想することが難しく、「できなかった」と評価したと考えられる（各項目ウエオ）。また項目オは全体的に低いため、後期の研究会で重点的に取り組む必要がある。 具体的な取組みの自由記述では「どうしたら〇〇できる？」のように児童生徒の目線で伝え方を考える等課題を捉えられるように、学校研究のテーマである「問いの質を高める」ことに関連する授業改善が多数見られた。
		国語	算数	英語	全体																																																								
①	56.3	44.4	33.3	48.5																																																									
②	18.8	33.3	22.2	24.2																																																									
③	12.5	22.2	22.2	18.2																																																									
④	12.5	0.0	22.2	9.1																																																									
	国語	算数	英語	全体																																																									
ア	91.7	88.9	77.8	87.9																																																									
イ	91.7	100	88.9	90.9																																																									
ウ	75.0	88.9	66.7	78.8																																																									
エ	75.0	77.8	66.7	75.8																																																									
オ	58.3	66.7	33.3	54.5																																																									
② <専門性の向上> 社会に開かれた教育課程を目指し、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業展開や各教科の指導の充実を図る。	教務課 全学部	部で作成・検討した3年間を見通した指導内容表が、年間指導計画や個別の指導計画に活かされ、各教科の指導が充実したと感じる保護者の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <div>達成度判断基準</div> 学校公開で、各教科の指導が充実したと感じた保護者及び参観者の割合が70%以上	【学校公開参観者アンケート】1項目 ア. 年間指導計画や指導内容表をご覧になり、3年間を見通した各教科の指導が充実したと感じますか。	参観者アンケート6段階評価の割合 a とても思う 29.0% b そう思う 41.9% c あまり思わない 0% d 思わない 0% e 分からない 6.5% f 見ていない 22.6%  【結果】 B「a+b」=70.0%	今年度の学校公開より年間指導計画に加え、各学部の国語、算数・数学の3年間の指導内容表を掲示するようにした。7月の学校公開では回答者31名のうち「充実したとても思う」「そう思う」と答えたのは参観者の70.9%となりB評価であった。参観者すべての方に見ていただけるよう案内表示を立て、受付そばに掲示した。しかし「わからない、見ていない」の回答が全体の29%を占めており参観者に見ていただくためにより一層掲示の工夫をしていく必要がある。 現在、他教科の指導内容表を作成中であり、各教科の指導に活かしていけるよう、改善、検討を進めていく。																																																								

	③	<p><ICTの活用> 児童生徒の障害特性を踏まえたICTの活用を工夫し、個別最適な学びや協働的な学びに繋がる授業を実践する。</p>	<p>情報支援課 全学部</p>	<p>タブレット端末を効果的に活用し、児童生徒の家庭学習やオンライン学習等につながる個別最適な学びを進める取組みができた職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p>達成度判断基準 タブレット端末を活用して児童生徒の個の特性、興味・関心、学習進度に合わせた学習指導を行った職員の割合が70%以上</p>	<p>【職員アンケート】1項目 ア. タブレット端末を活用して、児童生徒の個の特性、興味・関心、学習進度に合わせた学習指導を行った。</p>	<p>タブレット端末を活用し学習指導を行った職員の割合 a 週に1回以上行った 35.5% b 月に1回以上行った 38.7% c 4～9月の間に1回以上行った 19.4% d 行ったことがない 6.5%</p> <p>【結果】 <u>A 「a+b+c」 = 93.5%</u></p>	<p>教職員の93.5%がタブレット端末を活用し、個別最適な学びを進める学習指導を行ったと回答し、A評価となった。「行ったことがない」と回答した6.5%の理由に 「実態に合う活用法がみつからない」とあり、児童生徒の発達段階によっては活用が難しいことが考えられる。どんな場面で活用できるか、今後、個別の相談も受けながら対応し、より積極的な活用を目指す。 また、今年度推進しているオンラインツールGoogle Classroomを活用して児童生徒や保護者とのやりとりを行っている。より具体的にアンケートをとると、82.4%の担任がやりとりを行ったと回答し活用が浸透していることが伺える実践形式を含むICT研修が活用の浸透に繋がったと考える。さらなるICT活用に向け、実践事例を情報共有する等していく。</p>
(2) キャリア教育の推進	①	<p><プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログラム（改訂版）を活用し、家庭と連携し個々のキャリア発達を促す取組みを実践する。</p>	<p>進路支援課 キャリア教育委員会 各担任</p>	<p>キャリア教育の内容【社会で生きる力】（挨拶やきまりを守る等）を理解し、家庭でも取組んでいる保護者の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p>達成度判断基準 家庭で取組んでいる保護者の割合が70%以上</p>	<p>【保護者・取組みカード結果】1項目 （キャリア発達につながる具体的な内容の家庭での取り組みについて） ア. 『約束守り名人になろう！』の取組み週間で、家庭での約束を決め、児童生徒が約束を守ろうと取り組みましたか。</p>	<p>家庭で『約束守り名人になろう！』に取り組んだ割合 a 取り組んだ 80.7% b 取り組んでいない 19.3%</p> <p>※学部別の割合 小学部 85% 中学部 100% 高等部 62%</p> <p>【結果】 <u>A 80.7%</u></p>	<p>キャリア教育重点目標「挨拶や決まりを守る」について、個人懇談時に担任から学校での取組みを紹介し、家庭でもできる具体的な取組みを一緒に考えた。全校で取組み期間を設定し、その期間中に家庭で取組んだ保護者は、全体の80.7%だった。昨年度末は、63%の取組み状況だったが、担任と一緒に具体的な目標を考えたことで取組みが増えたと考える。 また、児童生徒会で6月に玄関エントランスで朝の挨拶運動「あいさつの花を咲かせよう」に取り組んだところ、自分から積極的に挨拶をする児童生徒が増えた。家庭で、挨拶をすることについて取組んだ児童生徒も多く、その成果もあると考える。後期も継続して取り組んでいけるようにする。</p>

	②	＜進路支援の充実＞ センター的機能を 発揮し、地域の保護 者も交えた進路研修 会等を継続し、キャ リア教育の充実や進 路支援、進路相談の 充実を図る。	進路支 援課 相談支 援課	キャリア教育や進路に関 する研修会等の内容や進路 相談に満足している保護者 の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <u>達成度判断基準</u> 進路に関する研修会等で内 容や進路相談に満足してい る保護者・参加者の割合が 70%以上	【保護者・参加者アンケート】 <u>1項目</u> ア. 卒業後の進路を考える研修会 等で、研修内容等が分かり、 参考になりましたか。	参加者アンケート4段階評価の割合 a 研修内容等がよく分かり、とても参 考になった。 22.2% b 研修内容等が概ね分かり、参考にな った。 66.7% c 研修内容等があまり分からず参考に ならなかった。 0% D 研修内容等が全く分からず参考に ならなかった。 11.1%  【結果】 A「a+b」=88.9%	卒業後の進路を考える研修会に 参加し、アンケートを提出したほ んどの保護者より、研修内容等 が分かり子どもの進路について考 えるための参考になったとの回答 が得られた。反面、研修内容等が 全く分からず参考にならなかった という意見もあり、講話の内容が 子どもの実態に合っていないと感 じた部分もあったと考えられる。 第2回研修会に向けて、保護者 の要望を反映し、ニーズに応えた 研修会を企画していくことを検討 していく。 また、今回はFormsでアンケー トを実施したが、回収率が低か った。外部の参加者のうち、進 路相談の参加者からの意見は得 られなかったため、進路相談に 対する満足度をはかることが難 しかった。第2回の研修会時に はFormsに加え、その場で記入で きる用紙も提示し、参加者が回 答しやすいように改善をはかり 、回収率のアップにつなげてい きたい。																								
(3) 安心・安全 な学校づく り	①	＜健康・安全・防災に 関する教育活動の充実 ＞ 健康・安全・防災に 関する指導を授業や行 事等において実践する	保健課 各担任	児童生徒の実態や発達段 階に応じて指導し、健康や 保健に関する学習において 理解を深めることができた 児童生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <u>達成度判断基準</u> 健康や保健に関する学習に おいて理解を深めることが できた児童生徒の割合が70% 以上	【教員アンケート】 <u>3項目</u> ア. 感染症予防や衛生面を意識し て、自分から進んで手洗いをし ている児童生徒数。 イ. 歯を大切にすることの理解を 深めていたり、自分から歯を 磨く等の自主的な行動がみら れたりした児童生徒数。 ウ. 夏を元気に過ごすために、自 主的に水分をとる、汗をかい たら着替える、食事をしっか りとる等、熱中症対策を意識 した行動が見られた児童生徒 数。	3項目で自主的な行動が見られた児童 生徒の割合 <table><tr><td></td><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td></tr><tr><td>小学部</td><td>40.0%</td><td>70.0%</td><td>60.0%</td></tr><tr><td>中学部</td><td>42.9%</td><td>92.4%</td><td>78.6%</td></tr><tr><td>高等部</td><td>18.8%</td><td>37.5%</td><td>43.8%</td></tr><tr><td>小計</td><td>34.0%</td><td>66.0%</td><td>60.0%</td></tr><tr><td>平均</td><td colspan="3">53.3%</td></tr></table> 【結果】 D 53.3%		ア	イ	ウ	小学部	40.0%	70.0%	60.0%	中学部	42.9%	92.4%	78.6%	高等部	18.8%	37.5%	43.8%	小計	34.0%	66.0%	60.0%	平均	53.3%			日常的に手を洗うことや歯を磨 くこと、水分補給をすることにつ いて、自主的に行っている児童生 徒は多くみられるが、高等部では 全項目で達成基準を下回った。 「感染症予防」や「衛生面」、 「歯を大切にすること」や「熱中 症対策」等について、意識して取 組んだかの判断基準が担任間で差 が生じたことにも一因があると思 えられる。後期は基準を明確に提 示し、アンケートを実施する。 今後、毎月の保健目標について 様々な場面での発信を続け、毎月 の保健目標を意識した指導を教員 に働きかけながら、一人でも多く の児童生徒が健康や保健に関する 理解を深めていけるようにしてい きたい。
	ア	イ	ウ																												
小学部	40.0%	70.0%	60.0%																												
中学部	42.9%	92.4%	78.6%																												
高等部	18.8%	37.5%	43.8%																												
小計	34.0%	66.0%	60.0%																												
平均	53.3%																														

			指導課 各担任	防災学習や避難訓練等において、防災に関する発言が見られたり、適切な行動を自らとったりすることができた児童生徒の割合 A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 B以上 C・Dは工夫改善 <div>達成度判断基準</div> 防災学習において、防災に関する発言や適切な行動を自らとった児童生徒の割合が70％以上	【教員アンケート】4項目 ＜防災学習＞ ア. モニター画面を見たり、教師の話の聞いたりしていた児童生徒数。 イ. 防災に関する話をしたり、絵カード等を指さしたりする姿が見られた児童生徒数。 ＜避難訓練（火災）＞ ア. 避難訓練（火災）では、教師の指示がなくても、ハンカチ等をくちにあて避難行動をとるなどの姿が見られた児童生徒数。 イ. 避難訓練（火災）では、「おはしも」を意識して安全に避難しようとした児童生徒数。	4項目で適切な行動や自主的な姿が見られた児童生徒の割合 <table><tr><th rowspan="2">学部</th><th colspan="2">防災学習</th><th colspan="2">火災訓練</th></tr><tr><th>ア</th><th>イ</th><th>ア</th><th>イ</th></tr><tr><td>小学部</td><td>80.0%</td><td>55.0%</td><td>70.0%</td><td>65.0%</td></tr><tr><td>中学部</td><td>100%</td><td>57.1%</td><td>78.5%</td><td>100%</td></tr><tr><td>高等部</td><td>93.7%</td><td>62.5%</td><td>80.0%</td><td>100%</td></tr><tr><td>小計</td><td>90.0%</td><td>58.0%</td><td>75.5%</td><td>85.7%</td></tr><tr><td>平均</td><td colspan="4">77.3%</td></tr></table> 【結果】B 77.3%	学部	防災学習		火災訓練		ア	イ	ア	イ	小学部	80.0%	55.0%	70.0%	65.0%	中学部	100%	57.1%	78.5%	100%	高等部	93.7%	62.5%	80.0%	100%	小計	90.0%	58.0%	75.5%	85.7%	平均	77.3%				防災学習と火災訓練において、児童生徒の意識や行動面について教員アンケート調査を行った結果調査4項目の平均が77.3％であり達成基準を上回った。一方で防災学習の「防災に関する話をしたり絵カード等を指さしたりする姿が見られた」が58％で、達成基準を下回った。今後は児童生徒の主体的な学びに繋がるように、防災学習にICT機器の活用や対話的な活動を取り入れる等の工夫改善を考え、児童生徒の防災に関する意識を高めていきたい。
学部	防災学習		火災訓練																																						
	ア	イ	ア	イ																																					
小学部	80.0%	55.0%	70.0%	65.0%																																					
中学部	100%	57.1%	78.5%	100%																																					
高等部	93.7%	62.5%	80.0%	100%																																					
小計	90.0%	58.0%	75.5%	85.7%																																					
平均	77.3%																																								
（4） 業務の効率化の工夫	①	＜業務の効率化と環境改善＞ 分掌業務のデジタル化と共有化を推進し、各部・各課がマニュアルやスケジュール等をもとに業務の効率化や平準化を目指す。	教頭 各課 全学部	各部・各課（計12部署）において、連絡・調査等の配付文書をペーパーレス化し、計画的にデジタル配信することで、効率よく業務を行えた部・課の割合 A：10/12以上 B： 8/12以上 C： 6/12以上 D： 4/12以下 B以上 C・Dは工夫改善 <div>達成度判断基準</div> 家庭及び関係機関への配付文書をペーパーレス化し、効率化を図った部・課が8部署以上	【教員アンケート】1項目 ア. 前期、連絡や調査等の配付文書をペーパーレス化し、業務の効率化を図った。	配付文書をペーパーレス化し、業務の効率化を図った部署の数 a 前期、連絡や調査等の配付文書をペーパーレス化し、業務の効率化を図った課、部 10部署 b 前期、連絡や調査等の配付文書のペーパーレス化を行わなかった課、部 2部署 【結果】A 「10/12」	12の部署のうち、10の部署においてペーパーレス化を図ったという回答を得られた。また、全部署から、業務の平準化を意識した業務分担や、Teams等を活用した連絡や会議の効率化を図っていると回答があった。 家庭及び関係機関への連絡は今年度より導入した保護者連絡ツール（tetoru）やGoogle Classroomの活用が浸透してきており、業務のICT化が進んでいることがうかがえる。保護者等への配付物については目的や用途に応じてデータ配信と紙媒体配付の2つの方法を使い分け、段階的にペーパーレス化を進めていけるように、今後も業務の効率化に努めていく。																																		